

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	重野, 寛(Shigeno, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2019
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.6, No.1 (2019. 3) ,p.4- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000006-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

重野 寛

慶應義塾大学 DMC 研究センター所長
理工学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 6 号をお届けいたします。本号には、2018 年秋の DMC 研究センターシンポジウム第 8 回「デジタル知の文化的普及と深化に向けて：メタデータ再考」における講演やパネル・ディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。

当センターは 2004 年にデジタルメディア・コンテンツ統合研究機構としてスタートし、2010 年にその活動を現在の研究センターに引き継ぎました。以来、文理にとらわれない学問分野の融合を目指し、新しい知の創造や流通、あるいは教育、文化、芸術等のさまざまな領域への貢献を考えながら、活動を続けてまいりました。

当センターでは、幅広い研究プロジェクトを展開しています。そのひとつにデジタル・アナログ融合型のユニバーシティ・ミュージアムの実現を目指す Museum of Shared and Interactive Cataloguing (MoSaIC) プロジェクトがあります。MoSaIC プロジェクトでは、文化資源の周辺や背後にある「物の関係性」をコンテクストと呼び、このコンセプトを進化させる方向で、デジタルミュージアムの技術開発と実践を重ねてきました。一方で、文化資源のデジタル情報の活用においてはメタデータの利活用の重要性が認識されています。メタデータのあり方は我々の考える文化資源のコンテクストと常に深い関係にあります。今回のシンポジウムは、デジタル知のボーダレスな利活用をさらに促進する観点から、メタデータについて再度考えるとともに、私どもの立ち位置を確認する意味でも大変貴重な機会となりました。

当センターが推進するもうひとつのプロジェクトとして、FutureLearn におけるオンライン講義配信があります。FutureLearn は英国ロンドンに本部を置く、オンライン講義の配信事業体で、これに慶應義塾として参画しています。2018 年 8 月の段階で、慶應義塾大学からは 6 本の講義を配信しており、学習の登録者は全体ですでに 5 万人を数えるというところまで成長し、まだまだ増えていくと見込まれています。

『DMC 紀要』第 6 号を通じ、より多くの研究者、関係者の皆様へ当センターの活動をお伝えし、デジタル知の利活用やそれらを取り巻く諸問題についてご検討を進める一助となりますと幸いです。